

【様式第 4 号】

令和 7 年度 第 3 回 保土ヶ谷区障害者自立支援協議会 ほどほどの会 会議録	
日時	令和 7 年 6 月 17 日（火）15:30～17:00
開催場所	常盤台病院
出席者	田中（わおん）、加藤（リンク）、深澤（常盤台病院）、山本（区役所）、田村（基幹相談支援センター）、霜島、新井田（あかね工房）、佐藤若・大方（生活支援センター）（敬称略）
欠席者	
開催形態	公開（傍聴人： 名）・ <u>非公開</u>
議 題	1. 普及啓発について 〈アンケート〉 ・常盤台病院の職員 100 名を対象に実施。回答期日は 7/10。 ・集計結果は 7 月ほどほどの会にて共有予定 〈アンケート回収後のスケジュール〉 7 月 深澤氏より結果分類したものを共有→各自分析 ほどほどの会にて意見集約、まとめ 8 月 ほどほどの会にてアンケート報告書承認、出張あかね工房振り返り 病院へアンケート返却。集計結果に加え、今後の活用方法や次年度以降の活動内容について報告。 12 月 今年度の活動の振り返り、活動報告書提出 12 月以降～ 区精神ネット全体会にて活動報告 〈アンケートの途中経過について〉 ・アンケートの回答が好意的。活動を知り、継続してほしいという意見が多い。ほどほどと一緒に活動したいという意見も多い。 ・退院阻害要因について「地域支援者との協議」「本人へかかわる人を増やす」「社会資源を知る」という意見が多い。 →ほどほどでも議論が上がっていたことと同様の意見が病院側からも挙がっている ・アンケート結果は共有し病院側（現場）のニーズは院内でも共有していただけるとよいのでは。 ・当事者の意見を聞いて良かったという意見が出ていてうれしい。 ・病識が薄い人に対し、当事者の体験談+医療者からの解説の 2 点があるとよいのでは。退院後の利用者さんの姿を見てもらうのは良い。 ・（あるに越したことはないが）病識が薄くても退院できる人はできる。「病識がある人でないと退院できない」という考えが病院側にあるのでは。 →地域で生活をしている人がどんな工夫をしているのか、知っていただけるとよいのでは。 ・本人にとって、調子を崩す前の前段があり入院まで地続き。入院前～退院後まで看看連携ができるとよいのでは。 ・医療側の関心がないわけではない。病棟の中にいると生活の場面が見れないためわからないことがあるのでは。当事者だけではなく、病院スタッフに地域生活を知ってもらえると良いのでは。 ・地域、病院それぞれで本人のどこを見ているのか共有しあい、共通言語を見つけていく。 →事例の積み重ね、看護師から事例を出してもらうなどの方法が検討できるか。

・アンケートきっかけに活動を知ったという意見も多く、アンケートを通じて普及ができたのは良かった。

2. 生活教室、あかね工房出張講座

〈あかね工房出張講座〉

年間予定:計4回

7月末(1回目) 出張あかね工房。院内での作業体験 →OTに日程確認中(決まり次第新井田氏よりメールにて周知)

9月末(2回目) あかねでの見学・作業体験

R8年2月(3回目) 出張あかね工房。ピアの方の話を聞く会

R8年3月(4回目) あかね工房見学・作業(+GH見学)

→1.2回目は日中体験、3.4回目は暮らしを見てもらうイメージ

4回目の時に、グループホーム見学も含めツアー形式にできると良い

・第1回出張あかね工房の振り返り→8月ほどほどの会にて振り返り予定

〈生活教室振り返り〉

・6/17(火)実施。常盤台病院より4名参加。深澤氏よりフィードバックいただく予定

・松浦OTより「生活教室だと活動の自由度が上がり、やることが広がることがわかった」

次回予定:12月生活教室

3. その他

・7月以降予定について

変更点:7月事例検討会を9月に変更

7月 アンケート集計意見集約

8月 アンケート報告書承認・出張あかね工房振り返り

9月 事例検討会

次回: 7 月 15 日 (火) 15:30 ~

場所: 常盤台病院